

[044]言語文化論究表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/2560381>

出版情報：言語文化論究. 44, 2020-03-13. 九州大学大学院言語文化研究院
バージョン：
権利関係：

退職教授研究業績表

松村瑞子教授

I. 著書

1. 『日英語の時制と相——意味・語用論的観点から』(単著)全161頁,東京:開文社,1996年4月.
2. 『日本語のポライトネス——異文化理解教育の方法開発に向けて——』(単著)全230頁,福岡:花書院,2018年2月.

II. 学術論文(全て単著)

1. 「進行形の非進行的用法について」『Cairn』(九州大学大学院英語学英文学研究会)第23号,13-52頁,1981年1月.
2. 「進行形の意味と用法について」『Cairn』(九州大学大学院英語学英文学研究会)第24号,113-29頁,1981年10月.
3. 「Can の用法について」『北九州大学文学部紀要』第29号,29-51頁,1982年8月.
4. 「There-構文中の there の解釈について」『北九州大学文学部紀要』第32号,57-74頁,1984年1月.
5. “A Study on *There*-Construction”『北九州大学文学部紀要』第34号,61-90頁,1985年1月.
6. “Can’t Seem To” 構文『北九州大学文学部紀要』開学40周年記念号,179-94頁,1987年2月.
7. “The Past Perfect in *before*-Clauses”『九州英文学研究』第4号,1-22頁,1987年3月.
8. 「非論理的過去完了形」『英語青年』1987年12月号,9頁,1987年12月.
9. 「非論理的過去完了形」『英語学の視点——大江三郎先生追悼記念論文集』(九州大学出版会),123-39頁,1989年8月.
10. 「会話中の歴史的現在」『北九州大学文学部紀要』第42号,25-43頁,1989年3月.
11. “Questions and Bias”『北九州大学文学部紀要』第43号,29-51頁,1989年12月.
12. “Complaining and Refusing Politely: Japanese and American Attitudes and Approaches”『北九州大学文学部紀要』第45号,61-84頁,1991年10月.
13. 「Before 節内の完了形——『Before 節のパラドクス再考』を読んで」『英語青年』1991年11月号,23頁,1991年11月.
14. 「日本語のテンスと視点——日英語比較の立場から——」『英語・英文学研究の再構築』(九州大学出版会),379-400頁,1993年5月.
15. 「日本語の時制と省略性」『言語学からの眺望』(九州大学出版会),405-19頁,1993年8月.
16. 「条件節中の will と現実味」『英語英文学論叢』(九州大学英語英文学研究会)第45集,83-90頁,1995年2月.
17. 「いわゆる～テイルの交替形としての～タ」『言語科学』(九州大学大学院言語文化部言語研究

- 会) 第30号, 105-12頁, 1995年2月.
18. 「進行形と～テイル形——未完結と既完結——」『英語英文学論叢』(九州大学英語英文学研究会) 第46集, 17-31頁, 1996年2月.
 19. 「日本語の歴史的現在と主語の人称」『言語科学』(九州大学大学院言語文化部言語研究会) 第32号, 105-12頁, 1997年2月.
 20. 「日本語談話におけるスタイル交替の実態とその効果」『言語科学』(九州大学大学院言語文化部言語研究会) 第33号, 109-118頁, 1998年2月.
 21. 「日本語会話におけるポライトネス——Brown & Levinsonの妥当性を中心に——」『言語科学』(九州大学大学院言語文化部言語研究会) 第34号, 51-60頁, 1999年2月.
 22. 「日本語の会話における丁寧さ」『韓日言語文化研究』(韓日言語文化研究会) 創刊号, 59-78頁, 2000年7月.
 23. 「日本語の会話に見られる男女差」『比較社会文化』(九州大学大学院比較社会文化学府) 第7号, 69-75頁, 2001年3月.
 24. 「日本語の女性語——女性語=劣性の言語か——」『韓日言語文化研究』(韓日言語文化研究会) 第2集, 117-30頁, 2001年9月.
 25. 「時制表現としての日本語のタ形」『韓日言語文化研究』(韓日言語文化研究会) 第3集, 55-72頁, 2002年12月.
 26. 「日本語の談話における発話・思考の引用——英語との対照を中心に——」『テンスとアスペクト——日・英・仏・西語の観点から』(九州大学大学院言語文化研究院) 山村ひろみ, 小熊和郎, 松村瑞子編, 言語文化叢書 VIII, 71-82頁, 2003年3月.
 27. 「会話中の歴史的現在」『英語青年』2003年10月号, 42-43頁, 2003年10月.
 28. 「日本人の敬意表現——韓国人之との相違を中心に——」『ことばのからくり——河上誓作教授退官記念論集——』東京: 英宝社, 787-800頁, 2004年3月.
 29. 「日本語における自由直接話法と自由間接話法」『韓日言語文化研究』(韓日言語文化研究会) 第5集, 41-62頁, 2004年12月.
 30. 「日本語のジェンダー表現と話法」『言語と文化のジェンダー』(九州大学大学院言語文化研究院) 松村瑞子, 山村ひろみ編, 言語文化叢書 XV, 20-29頁, 2005年3月.
 31. 「少女マンガの言葉遣い——重層的内面表現の手段としての表現形式」『漫画研究への扉』日下翠編, 福岡: 梓書院, 111-32頁, 2005年9月.
 32. 「時を表す since 節中の完了形と単純形」『ことばの楽しみ——東西の文化を超えて』田島松二編, 東京: 南雲堂, 228-239頁, 2006年3月.
 33. 「従属節中のアスペクト」『英語語法文法研究』(英語語法文法学会, 開拓社) 第13号, 21-35頁, 2006年12月.
 34. 「日本語のアスペクトと動詞分類」『東アジア言語文化研究』(東アジア言語文化研究会) 第8集, 115-37頁, 2007年6月.
 35. 「日本語の会話におけるポライトネス——中国語・韓国語のポライトネスとの対照研究に向けて——」『日語研究論文集——日語研究的新視野』(大葉大学応用日語学系), 13-38頁, 2009年7月.
 36. 「聞き手志向の日本語のポライトネス——日本語における配慮表現とポライトネス——」『東アジア言語文化研究』(東アジア言語文化研究会) 第11集, 51-65頁, 2010年10月.

37. 「日本人と中国人の配慮表現に対する認識 — アンケート調査を基に —」『東アジア言語文化研究』(東アジア言語文化研究会) 第12集, 24-44頁, 2011年4月.
38. 「効率的な日本語ポライトネス指導法 — 勧誘・依頼および断りの方略を中心に —」『言語と文化の対話』山崎和夫・松村瑞子(編), 福岡:花書院, 205-21頁, 2012年8月.
39. 「日本人の謝罪行動 — いつ謝罪が求められているのか —」『東アジア日本語・日本文化研究』(東アジア日本語・日本文化研究会) 第15集, 91-104頁, 2013年3月.
40. 「日本人の不平・不満・不同意表明」『東アジア日本語・日本文化研究』(東アジア日本語・日本文化研究会) 第17集, 89-103頁, 2014年3月.
41. 「日本人の感謝表明とポライトネス」『東アジア日本語・日本文化研究』(東アジア日本語・日本文化研究会) 第19集, 83-94頁, 2015年3月.
42. 「褒めとポライトネス — 褒めは肯定的評価か否定的評価か —」『言語科学』(九州大学大学院言語文化学部言語研究会) 第51号, 51-58頁, 2016年3月.
43. 「(イン)ポライトネス研究の方向性 — フェイス・ディサーンメントの再概念化を受けて —」『東アジア日本語・日本文化研究』(東アジア日本語・日本文化研究会) 第22集, 109-124頁, 2017年2月.
44. 「日本語のジェンダーと(イン)ポライトネス — ステレオタイプ的見方を再生産していないか —」『言語科学』(九州大学大学院言語文化学部言語研究会) 第53号, 55-64頁, 2018年3月.
45. 「日本人女性の発話におけるアサーティブネス — ノン・アサーティブネスは女性の特徴か, 日本人の特徴か? —」『言語科学』(九州大学大学院言語文化学部言語研究会) 第54号, 27-36頁, 2019年3月.

Ⅲ. 学会発表、招待講演

1. 「進行形の非進行的用法について」日本英文学会九州支部第33回大会(鹿児島大学)1980年10月.
2. 「Can と出来事の実現性」日本英文学会九州支部第35回大会(宮崎大学)1982年10月.
3. 「There 構文についての一考察」日本英文学会九州支部第37回大会(長崎活水大学)1984年10月.
4. 「Before 節内の過去完了形」日本英文学会第79回大会(中央大学)1987年5月.
5. 「日本語の会話における丁寧さ」(松村瑞子・因京子)第1回韓日言語文化国際フォーラム(韓国・仁川大学校)1999年12月.
6. “Politeness in Japanese conversation between people of different social levels: A discourse-based analysis” (Matsumura, Yoshiko and Chinami, Kyoko) International Symposium on Linguistic Politeness (Chulalongkorn University: Thailand) December 1999.
7. 「マンガの女性語」第2回韓日言語文化国際フォーラム(北九州大学)2002年2月.
8. 「日本語会話における歴史的現在」第3回韓日言語文化国際フォーラム(韓国:仁川大学校)2002年12月.
9. 「日本人と韓国人の敬意表現の対照分析」(松村瑞子・李奈娟)社会言語科学会(立教大学)2003年3月.
10. 「日英語における発話・思考の引用」第56回日本英文学会九州支部大会(鹿児島大学)2003年10月.
11. “Japanese and Korean politeness: A discourse-based contrastive analysis” (Matsumura, Yoshiko, Chinami, Kyoko and Kim, Soojong) International Conference on Language, Politeness and Gender:

The Pragmatic Roots (University of Helsinki: Finland) September 2004.

12. 「従属節中のアスペクト」第13回英語語法文法学会（関西学院大学）2005年10月.
13. 「日本語の動詞分類とアスペクト」第9回東アジア言語文化フォーラム（中国：上海外国語大学）2006年12月.
14. 「日本語と韓国語のポライトネス：談話分析に基づく対照研究」（基調講演）第10回東アジア言語文化フォーラム（韓国：仁川大学校）2008年3月.
15. 「日本語の配慮表現とポライトネス：韓国語・中国語との対照研究」（招待発表）2009年大葉大学応用日語学系国際学術研究会（台湾：大葉大学）2008年3月.
16. 「日本語の配慮表現とポライトネス：日本語ポライトネス指導教材開発に向けて」（招待発表）2010年中国教学研究会年会合・第6回中日韓文化教育研究国際研究会（中国：大連外国語学院）2010年9月.
17. 「発話行為におけるポライトネスの指導法——謝罪行為を中心に——」第14回東アジア日本語・日本文化フォーラム（中国：上海外国語大学）2013年3月.
18. “Teaching Politeness by Focusing on Difference in recognition between Japanese and Japanese Learners” (Matsumura, Yoshiko and Chinami, Kyoko) Conference on Teaching and Learning (im) Politeness (University of London: Great Britain) July 2013.
19. 「日本人の言語行動におけるポライトネス：日本語ポライトネス指導教材開発に向けて」（招待発表）第16回東アジア日本語・日本文化フォーラム（韓国：仁川大学校）2015年3月.
20. 「日本人の言語行動におけるポライトネス——効率的な日本語ポライトネス指導を目指して——」（招待講演）名古屋大学大学院日本語教育講座講演会（名古屋大学）2015年11月.
21. “An Effective Way to Teach Japanese Politeness: Focusing on Difference in Understanding between Japanese and Non-Japanese People”, *Kyushu University and University of Arizona Symposium: Topics in Language, Literature and Culture*. (University of Arizona: USA) March 2016.
22. 「ジェンダーと（イン）ポライトネス：ステレオタイプの見方を再生産していないか？」『パネルディスカッション：ことばと性差——何が問題なのか』日本語ジェンダー学会第18回年次大会（東京農工大学）2017年7月.
23. 「種々の発話行為におけるアサーティブネス：女性は自己主張に欠けるか？」『パネルディスカッション：アサーティブネスとジェンダー』日本語ジェンダー学会第19回年次大会（長崎ウェスレヤン大学）2018年6月.
24. 「伝達動詞の歴史的現在——日英語の対照研究——」（招待発表）日本英文学会九州支部第71回大会（九州女子大学）2018年10月.

IV. その他

(1) 科学研究費等補助金による研究調査

1. 「日本語の談話におけるスタイル交替の実態とその効果についての分析」平成10～12年度科学研究費補助金基盤研究（C），課題番号10680309，研究代表者.
2. 「女性・少女マンガを素材とする異文化理解教育の方法開発」平成11～13年度科学研究費補助金萌芽研究，課題番号11878039，研究分担者.
3. 「マンガを素材とする異文化理解教育の方法開発」平成14～16年度科学研究費補助金基盤研究（C），課題番号14580302，研究分担者.

4. 「日・英・仏・西語における対照研究：時制アспектを中心として」平成15～17年度科学研究費補助金基盤研究（C），課題番号1552060，研究分担者.
5. 「ストーリーマンガの作品を利用した異文化理解教育の教材とプログラムの開発」平成17～19年度科学研究費補助金基盤研究（C），課題番号17530666，研究分担者.
6. 「談話分析に基づく日本語ポライトネス指導教材開発」平成20～22年度科学研究費補助金基盤研究（C），課題番号14580302，研究代表者.
7. 「ストーリーマンガを含む大衆文化作品を素材とする異文化理解教育教材と教師用リソース開発」平成20～22年度科学研究費補助金基盤研究（C），20530838，研究分担者.
8. 「実践日本語ポライトネス技術訓練方法の開発」平成23～25年度科学研究費補助金基盤研究（C），課題番号23520636，研究代表者.
9. 「日本人の言語行動におけるポライトネス——異文化理解の方法開発——」平成26～28年度科学研究費補助金基盤研究（C），課題番号26370608，研究代表者.

(2) 学内補助金による研究調査

1. 「生命倫理を主題とする内容重視の言語指導教材・プログラム開発」平成19～20年度九州大学研究プログラム・研究拠点プログラム（P&P），課題番号19201，九州大学大学院言語文化研究院言語教育学講座，研究代表者.
2. 「領域横断型の英語読解聴解教材開発——CLIL（内容言語統合型学習）支援の取り組み」平成26～27年度九州大学教育の質向上プログラム（EEP），九州大学大学院言語文化研究院学術英語テキスト編集委員会，研究代表者.

(3) 教科書，辞典等

1. 辞書『講談社キャンパス英和辞典』東京：講談社，「be, do, have の項目担当」1997年11月.
2. 教科書『Issues in Bioethics 生命倫理の諸問題』（言語文化研究院言語教育学講座編），東京：開文社，テキスト61頁，練習問題60頁，2010年4月.
3. 教科書『実践日本語ポライトネス指導教材 日本語・英語・中国語教材』松村瑞子・因京子，城島印刷，全296頁，2011年3月.
4. 指導用解説書『実践日本語ポライトネス指導教材 日本語・英語・中国語教材』松村瑞子・因京子，城島印刷，全302頁，2011年3月.
5. 教科書“Authentic Reader A Gateway to Academic English”九州大学大学院言語文化研究院学術英語テキスト編集委員会編，2016年8月.